

令和4年度第2回 岡山県スポーツ推進審議会の議事概要

【開催概要】

- 日 時 令和4年11月2日（木）10:00～11:25
- 会 場 ピュアリティまきび 2F 白鳥の間（岡山市北区下石井 2-6-41）
- 出席者 <委員（五十音順）>
- 米谷会長、赤木委員、居原田委員、上田委員、坂本委員、
泉水委員、田中委員、松井委員、松本委員、森委員
- ※委員 15 人中 10 人の出席であり、本審議会は成立
- ※議事に先駆けて、委員の互選により、全会一致で米谷委員が会長、三村委員が副会長に選出された。
- <事務局>
- 環境文化部：佐藤環境文化部長、有田文化スポーツ振興監、
岡本マラソン事務局参与、宮野スポーツ振興課長
- 保健福祉部：山邊障害福祉課総括参事
- 教 育 庁：山本保健体育課長

1 開 会

2 あいさつ

○環境文化部長あいさつ

- ・先般、「いちご一会とちぎ国体」が開催され、本県は、男女総合16位、女子総合23位という成績を収めた。自身も現地で応援したが、コロナ禍以来、初めての開催となる国体において、これまでの練習の成果を存分に発揮し、力を尽くしている選手たちの姿に胸が熱くなった。「する」「みる」「ささえる」と、様々な方法で楽しむことができるスポーツの力をあらためて感じているところである。
- ・11月13日には、3年ぶりとなるおかやまマラソンが開催され、県内外から多くのランナーが集まる。大会を支える大勢の関係者やボランティアの力を借りながら、岡山ならではの大会としたいので、ご声援、ご協力をお願いします。
- ・Jリーグ・ファジアーノ岡山のJ1昇格は残念ながら実現しなかったが、3位の成績を収め、岡山のトップクラブチームとして、引き続き応援をしたい。
- ・本日は、第2次岡山県スポーツ推進計画の素案について諮ることとしている。今月中旬から、素案を示して意見を募集するパブリックコメントを実施することとしており、活発な審議をお願いします。

3 議 事

※資料に沿ってまとめているため、必ずしも発言順ではない。

(1) 第2次岡山県スポーツ推進計画の策定（素案）について

資料1 P. 1～6、素案（別冊）等

■事務局説明（スポーツ振興課長、障害福祉課長、保健体育課長）

- ・資料に沿って説明

■質疑等

①数値目標（成人男女の1週間に1日以上運動・スポーツをする割合）関係 （委員）

- ・策定時 38.9%、目標値 55%とされている。「高齢者の健康・生きがいづくりを進める」と素案にも書かれているが、コロナ禍で高齢者の体力が落ち、平均寿命と健康寿命については10年以上の差がある中、フレイル予防、ロコモシンドローム予防等、体を動かし健康寿命を延ばす取り組みがますます大切である。
- ・健康のために体を動かさないといけないという認識を地域で持ち、がんばれるよう、目標値 55%に向けてもう少し具体的な取組を加えてもらってもよいのではないか。

（スポーツ振興課長）

- ・コロナ禍で、ここ数年、高齢者への取組が低下した。これから第2次計画に基づき、運動・スポーツをする割合を、38.9%から55%とする具体的な施策の展開について、ご意見を参考に考えていきたい。

②数値目標（1週間の総運動時間数 60 分未満の児童生徒数の割合）関係 （委員）

- ・この数値は体育で体を動かす時間を除いた時間と考えたらよいか。

（保健体育課長）

- ・学校体育の時間は含まれない。それ以外でどれだけ体を動かしているか、という項目となる。

③数値目標（運動やスポーツをすることが好きな児童生徒数の割合）関係 （委員）

- ・計画の中で目標値や策定時の数値があれば可視化でき、分かりやすく分析しやすい。
- ・運動が好きな自分も好き、嫌いな自分も好きであるという受け入れが子どもたちが成長する過程で大切である。体を動かすことの意義を承知したうえで調査をする必要がある。

(保健体育課長)

- ・運動を嫌いなことが悪いことでは決してない。保健体育課は、体を動かすことがいかに有意義で楽しいかを伝える課であり、学校現場においては、児童生徒に関わる教職員それぞれの立場で運動の楽しさを伝え、運動やスポーツが苦手な子どもが少しでも好きになることができるよう施策展開していきたい。

④数値目標（新体力テストにおける総合評価C以上の児童生徒数の割合）関係（委員）

- ・「岡山市も含んだ数値を目標としている」との注釈が記載されているが、新体力テストの種別は、岡山市と県は同じなのか。

(保健体育課長)

- ・新体力テストは、小学校5年生と中学校2年生の男女を対象に国が行っており、8種目とも全国統一されたものである

⑤数値目標（地域課題に応える取組の推進として学校との連携を行っている総合型地域スポーツクラブの割合）関係（委員）

- ・策定時は34.3%、目標値が50%となっているが、クラブ数でいうとどれだけの変化があるのか。

(スポーツ振興課長)

- ・策定時の令和3年度のクラブ数が44、年度途中での増加や休止もあるが、この数字をベースとし、策定時は15クラブ程度、現行のクラブ数がこのまま続く場合、目標値の50%は22クラブ程度となる。ただし、総合型地域スポーツクラブの増減により、クラブ数は変化する可能性がある。

(委員)

- ・総合型地域スポーツクラブについては、今年度から登録認証制度が始まった。今現在、岡山県内にある43クラブのうち、登録認証を受けたのが14クラブ、県の認証を受けるのが15クラブ程度だったと思う。登録認証を受けるのはそれなりの体制を有しているクラブであり、このようなクラブが、休日部活動の地域移行に際し、学校との連携ができるのではないかと想像する。そうした状況を考えたとき、目標値にある50%のクラブが学校との連携を行うのは数字的には厳しい印象がある。
- ・登録認証についての全国の状況は、11月1日時点で全国1,015クラブが認証されている。全体のクラブ数が3,600なので3分の1弱が登録認証を申請していることになる。申請が一番多いのは北海道、一番少ないのは山口県。兵庫県はクラブ数が500~600と全国一の数であるが、認証は11である。
- ・今回は登録基準が厳格でないにも関わらず3分の1のクラブしか申請して

いない。今後はこの基準が厳しくなる見込みである。こうしたことから、登録認証が増加するのではなく、減少傾向になるおそれもある。

(スポーツ振興課長)

- ・いただいたご意見をもとに、もう一度しっかりと検討したい。中学校の休日部活動の地域移行については、来年度からの3年間で重点的に取り組むこととされており、現状を説明すると、スポーツ振興課、教育庁保健体育課、文化部を担当する文化振興課、教育庁生涯学習課とともに、国の概算要求に応じた事業の調整をしており、国予算が追い風となり、総合型地域スポーツクラブの発展・充実にもつながることを期待している。
- ・部活動の地域移行を進める大きなポイントは場所や人といった受け皿であり、早急に整備する必要がある。国の施策とも併せ、総合型地域スポーツクラブが発展するよう、力添えをお願いしたい。

(委員)

- ・この数字がかなり上がらないと、来年度から始まる地域移行がうまく進まないのではないかと。目標値 50%では、円滑に進まないのではないかとという懸念がある。
- ・担い手となる人はもちろん、保護者の金銭的な負担といった課題もある。

(スポーツ振興課長)

- ・地域移行の前提として、たくさんの総合型地域スポーツクラブが受け皿を担うのは喜ばしいことである。岡山県の特徴として、大学が点在している、スポーツ推進協議会の活動が活発であることなどが挙げられ、すべての組織、団体、民間スポーツ団体も含めた受け皿づくりを進め、結果として、50%の目標値がさらに上がるようしっかりと取り組んでいきたい。

(委員)

- ・地域移行において、様々な受け皿が出てくる中、受け皿とのつながり方や連携の度合いが大切になってくる。
- ・「連携」や「つながり」について、例えば、総合型地域スポーツクラブとの連携は、どこまですれば連携と言えるのかが分かれば、他機関との連携を考える場合においても参考になる。答えられる範囲で教えてほしい。

(スポーツ振興課長)

- ・円滑な地域移行に向けて、来年度、県に総括コーディネーターを1人、各市町村にもコーディネーターを置くこととしている。総合型地域スポーツクラブとの連携については、コーディネーターとの意思疎通ができて地域移行について課題の共有ができていることが第一に挙げられる。そして、総合型地域スポーツクラブの方が中学校に来て活動したり、その逆として、中学生が総合型地域スポーツクラブに行き活動することも、ひとつの在り方として考えられる。

(委員)

- ・スポーツ推進委員は、県内に900人以上いる。地域に溶け込み、情報も持

っている自分たちスポーツ推進委員を、行政がいかに有効活用できるかが大切である。教育委員会からの依頼があれば、惜しみなく活動できる。

(会長)

- ・休日部活動の地域移行については、3年という期間が示されており、計画策定後の実行段階で、審議会の意見を参考にしっかりと取り組んでもらいたい。

⑥数値目標（トップクラブチームのホームゲームにおける観客動員数）関係

(委員)

- ・岡山県内には、沢山のトップクラブチームがあり、県民全体で応援している。例えば、「トップクラブチームのホームゲームを、県民の40%以上が観戦する」といった目標はいかがか。以前は県北地域の方が、県南でのホームゲームに行けるよう県でバスを出していた。県内全体が、トップクラブチームの試合を楽しめる工夫をしてもらいたい。

(スポーツ振興課長)

- ・ご意見について、どう事業展開を図るかを検討したい。今年度、井原市がファジアーノ岡山の観戦バスを出してくれた。また、来年度事業として、高齢者や放課後児童クラブの方、障害のある方などにトップクラブチームのホームゲームを観戦してもらえる事業も検討しており、実現できるよう努力していきたい。

⑦その他（全国障害者スポーツ大会について）

(委員)

- ・障害者スポーツについては、障害のない人のスポーツと一緒にできない部分もあることを知ってもらいたい。国体と同じ会場で行われる全国障害者スポーツ大会が行われた栃木県から昨日、帰ってきた。国体と大きく違うのは、県順位が出ない、表彰も組別表彰となることである。また、車いす、聴覚、視覚、上肢、下肢等といった障害の態様に応じた区分も細かくあり、障害の特性により指導の仕方も異なる。
- ・岡山県選手団は、今回、非常に活躍した。これまで苦手であった知的障害者の短距離走も、とてもがんばり、岡山県のパラスポーツも、今後変わってくるのではと期待している。

⑧総括

(会長)

- ・休日部活動の地域移行はもちろん、コロナ禍によるスポーツ・運動時間の抑制等、スポーツを取り巻く様々な課題がある。実行力のある計画となるよう、各委員の意見を反映してほしい。

(2) 第2次岡山県スポーツ推進計画の策定スケジュールについて

資料1 P. 7

■事務局説明（スポーツ振興課長）

- ・資料に沿って説明

■質疑等

なし

素案について、会長に一任のうえ取りまとめることについて、各委員の同意を得る。

4 報告事項 **資料2**

(1) 令和4年度スポーツ団体への補助金について

■事務局説明（スポーツ振興課長）

資料に沿って説明

(2) 冬季スポーツ・OKAYAMA 応援事業について

■事務局説明（スポーツ振興課長）

資料に沿って説明

(3) 第77回国民体育大会岡山県選手団の成績について

■事務局説明（スポーツ振興課長）

資料に沿って説明

(4) 令和4年度全国中学校体育大会の成績について

■事務局説明（保健体育課長）

資料に沿って説明

(5) 令和4年度全国高等学校総合体育大会の成績について

■事務局説明（保健体育課長）

資料に沿って説明

5 閉 会

○文化スポーツ振興監あいさつ

- ・専門的な見地からの意見を聞き、子供から高齢者まで行動が変容していることを実感した。また、待ったなしの休日部活動の地域移行についても、県として取り組んでいく必要性をあらためて強く感じた。
- ・本日いただいた貴重な意見をもとに、第2次県スポーツ推進計画の素案を最終調整のうえ、パブリックコメントを実施したい。
- ・西日本初の開催となる、令和7年国民スポーツ大会冬季大会の準備委員会を設立し、先日第1回総会を実施した。本大会のさらなる機運の醸成を図っていきたい。
- ・誰もがスポーツを楽しみ、スポーツを通じて地域の魅力を高めることができるよう、引き続き、各種施策に取り組んでいきたい。